

囲いやま森の会 観察記録

2008.4.7 野口 功

日 時： 2008.4.5（土） 10～12時 天気： 晴

記録・写真： 山田幸子

科学のアルバムシリーズは、尊敬する子どもの担任の先生から紹介された本です。子どもも私も大好きになり、本屋さんに行くたびに、一冊ずつ買いました。今読んでも新鮮です。シリーズ57の「キノコの世界」は、観察記録のために何回も読み直し、参考にしました。

ゆたかな水と空気と太陽の光にめぐまれた星 — 地球。そこにはさまざまな生き物が暮らしています。毎日、地球のどこかで生命が誕生し、どこかで死んでいきます。でも、かならず新しい生命がうけつがれていきます。 この文章が好きで、読むたびに感激しています。

春は新しい命を感じられる季節です。暖かな風に、柔らかな光に、めぐりくる季節の喜びを全身で味わいたいものですね。心が疲れた時はフィールドに出て、自然のエネルギーを受けて元気になります。

1)「スプリング・エフェメラル」を知っていますか？ 早春に花をつけ、夏まで葉をつけると、あとは地下で過ごす一連の草花の総称です。「春の儂いもの」「春の短い生命」という感じの意味です。カタクリ・イチリンソウ・フクジュソウ・ムラサキケマン・ユキワリイチゲなどがあげられます。

これらは虫媒花で、春の早い時期に活動をはじめる少数の昆虫が、その媒介を行います。
マルハナバチやハナアブ科のハエなどです。

囲いやまでは、ムラサキケマンが観察できます。

2)今年もウグイスカグラが、薄紅色の控えめな可愛らしい花をつける季節になりました。

夏に実る赤い果実は、食べることができます。名前の由来は高橋勝男氏によると、4つの説があります。

① 初夏にグミと似た実をつけるが、ウグイスがこれを喜んで食べる様子が神楽を舞うようだから。

② ウグイスが隠れやすい藪の中に自生、ウグイス隠(かく)れが変化したから。

③ 実を求めて、飛んで来たウグイスを、もち竿や網でとりやすい狩座(から)(猟場)になるから。

④ 藪の中で小枝が茂り蔓(かずら)のように見えるから。

さてどの説がふさわしいか、ゆっくり観察してみてください。

3)オオアラセイトウのアラセイトウはストックの古い呼び名です。別名のショカッサイは漢名、ハナダイコンとも呼ばれています。中国原産の2年草で、江戸時代に伝わってきました。淡紫色で、青空に似合う花です。

4)日本に自生するスミレ属は54種あります。董色の花ばかりでなく、白・黄色などもあります。

小さく可愛らしい、春の妖精たちです。タチツボスミレがよく知られています。

スミレは、可憐な花のほかに、閉鎖花とよばれる花もつけます。緑色のつぼみのようなもので、外に向かって咲くことはありません。自分の雄しべと雌しべだけで、種子を実らせる自家受粉の花です。ナポレオンはエルバ島に流されるとき、「スミレが咲く頃戻ってくる」と語ったそうです。彼の帰還は、パリ中を飾るスミレで祝われたと言われています。

- 5)ヒメアカタテハ・スジグロシロチョウ・ヤマトシジミなどが目につくようになりました。
- 6)植樹したクロモジに可愛い花が咲いていました。嬉しい成長の姿です。折れたウワミズザクラの幹からは、新葉が出ていました。大きく育って行ってほしいものですね。頑張れウワミズザクラ。
- 7)スギナの胞子莢(胞子をとばす器官)のことを、ツクシと呼びます。したがって、ツクシという名の植物はありません。でも、ついツクシと呼んでしまいます。親しみやすさが違います。

開花植物

木本 コブシ・クロモジ・ウグイスカグラなど

草本 シュンラン・オオアラセイトウ・カキドオシ・タネツケバナ・ホトケノザ・コハコベ・ミドリハコベ・ウシハコベ・ムラサキケマン・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・スズメノカタビラ・オニタビラコ・タチツボスミレ・ナズナなど

実のついている植物 ヤツデ・ヒサカキ・リュウノヒゲ・アオキなど

鳥 アオジ・ウグイス・ヒヨドリ・シジュウカラ・シロハラ・コゲラなど

昆虫 キアゲハ・ヒメアカタテハ・キチョウ・スジグロシロチョウ・ヤマトシジミ・ナナホシテントウ・キリギリスの幼体など、ゴミグモなど、

キノコ スエヒロタケ・カワラタケ・キクラゲなど



囲いやまの森

2008.4.5(土) 山田幸子

清明:全てのものが生き生きとして清らかに見えるという暦の通り、新しい生命を感じられる季節になりました。

